

運営評価に係る意見の反映について

平成30年7月24日
第9回会議
資料 3-2

1 UMECOからの報告や資料について

(評価しやすい報告の方法や報告書様式、評価に必要な指標、等)

項番	内容	反映
ア	目標値、実績値について、過去複数年の数値を掲載する必要がある(現状では、目標値の根拠が不明確)。	資料3-3 平成28年度実績を追加
イ	目標達成率を用いて評価を行うのであれば、その前提として目標数値の妥当性・客観性等が担保されている必要があると思うので、項目や目標の設定段階から第三者の目を通しておいた方が良いのではないかと思う。	
ウ	改善するポイントが分かるような自己評価があれば、委員会としても評価しやすい。	資料3-3 「自己評価」を「成果」「課題・対応」に分割
エ	事業ごとの自己評価について、記載欄を「成果」「課題」の2つに分けると評価しやすい。	
オ	評価欄について、少なくとも当該年度の事業の効果と残された(今後の)課題がわかるようにする必要がある。	
カ	今の書きかたでは事業内容と自己評価が同じように書かれていて、事業実態がわからない。	資料3-3 客観的な記載例を作成
キ	実施内容等の欄には、事業の展開方法等が分かるよう、客観的に記載してほしい。	
ク	「要改善」「要工夫」「維持」の記載については良いと思われるが、実施事業報告書の評価欄に改善点、工夫点の明記がほしい。何をもってそう判断したのか具体的にわかるとありがたい。	資料3-3 拠点機能に追加
ケ	拠点機能が1事業だけに見えることについては、見せ方に工夫の余地がある。	
コ	本来であれば、UMECO実施事業報告の拠点機能の箇所にて会議室の利用状況や市民活動団体の登録状況について報告があるとよいと思う。(詳細は別紙資料の添付で良いと思う。)	

2 「第三者評価シート(案)」について

①様式について

項番	内容	反映
ア	「維持」「要工夫」「要改善」の評価区分が妥当か疑問である。また、凡例が必要である。	資料3-3ほか 評価区分を見直し凡例を追加
イ	「要改善」「要工夫」「維持」の三区分別がわかりにくいと考えられる。区分の見直しが必要。たとえば、優れているため「継続・発展」させるという意味での評価があってもいい。	
ウ	「※欄」の「要改善」=もっとがんばる、「要工夫」=がんばっているがもう少し、「維持」=十分達成、と口頭で事務局より説明があったが、注釈がないと事業者と感覚が一致しているのかわからない。	
エ	「要改善」「要工夫」「維持」の評価基準を明確にしていきたい。	
オ	「評価」欄はフリーではなく、「評価できる点」(良い評価)、「改善すべき点」(悪い評価)が別々に書き込めるよう、2列、もしくは2段であるとよい。	資料3-5 「評価」を分割

②コンセプトの評価の視点の内容について

項番	内容	反映
ア	「その他」の箇所はコンセプトに入れることが妥当か再考する必要がある。	資料3-5 「I機能の達成状況(2)その他」として別途記載
イ	きっかけの場「市民活動に興味を持ったか」、行動の場「団体の活動が広がったか」、実現の場「地域の課題をとらえているか」等、追加してはどうか。	資料3-5 各視点に追加